



★「節目」を迎えて★

副校長 片岡 大昌

ようやく朝晩の風が心地よく過ごしやすい季節になりました。いつも本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。さて、ご承知の通り本校では二期制を採用しておりまして、1年を前期、後期の二つに分けています。先日、前期が終了し、10月15日から後期がスタートしました。後期の最終日には通知表を持ち帰りしましたので、一喜一憂？したご家庭もあるかもせれません。もちろん通知表はお子さんのすべてを表せるものではなく、学校での学習や生活という一つの側面において達成できたことや課題を表したものです。しかし、それでも自分の頑張りについて振り返る機会は大きな「節目」になると考えています。

「節」という言葉は、物事や人生の区切りを表す言葉であるとともに、木材や竹の「節」も意味しています。竹は節があることで、上の部分をしっかりと支え、上へ上へと真っ直ぐに伸びていきます。また、竹は節があることで、強い風に吹かれても、折れることなく、また起き上がって成長を続けることができます。柔らかくしなやかに曲がり、またもとに戻ることができるのも節があるからです。台風の後、完全に倒れてしまっているコンクリートの電柱のすぐ横で、折れることなく堂々と立っている竹の映像を見たことがあります。丈夫に見える電柱もしなやかさを備えている竹には敵わないのですね。

この事実は私たち人間の成長過程についてもヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。人生には様々な節目があります。入学、卒業、就職や引っ越し・・・、学期や学年の変わり目もその一つです。この節目はこれまでの自分を振り返ったり、これから自分の目標をもったりして、「頑張ろう」と思える機会になります。将来のある子供たちが、この節目をたくさん経験して、その経験を自分の栄養にしてぐんぐんと伸び、しなやかで強い人に成長していくことを願っています。私たち大人も自分の節目を大切にしながら、子供たちの成長を支えていきたいと思えます。

